

今回のテーマ ～ 平成30年度児童生徒の問題行動等調査から～

寒くなってきました。青森市の中学校では今文化祭真っただ中です。日頃の活動を保護者・地域の皆様に紹介する場として子どもたちも熱が入っています。日頃の感謝の気持ちを様々な表現活動を通して伝える、ネットでは感じ取れない人間同士の温かみを感じます。準備は大変ですが、良き学校文化と思います。今号は講演・啓発で使えるネット問題に関連するニュースを紹介します。

**ネット・ゲームの依存症対策
全国初の条例制定を目指す**

香川県議会はネットやゲームの依存症対策のために、全国初めてとなる条例制定を目指しています。10月17日には久里浜医療センターの樋口先生を招き、検討委員会が開かれました。

ネット依存はオンラインゲームで特に起こりやすいということで、中国や韓国では夜間のアクセス制限などの対策が取られています。

樋口先生から学校での予防教育や相談窓口の設置などの対策も提案され、香川県議会は来年4月の条例施行を目指し、今年中に骨子案を作成、来年2月の県議会に条例案を提案する方針とのことです。

Yahoo ニュース 「ネット・ゲーム依存症対策」全国初の条例制定を目指し、専門家交え検討委員会 2019年10月17日
(閲覧日 2019年10月21日)

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191017-00010007-ksbv-137>

地域が先行して条例を作っている先進的な取り組みです。学校や家庭では相当、切実感がある問題と認識しており、香川県の問題意識の高さに敬服します。子どもは国・地域の宝と考え、ネット・ゲームの依存から守っていくための手立ては必要です。

青森県においても大谷代表の尽力で青森県医師会にネット依存相談窓口の開設にいたることができました。現場・地域からボトムアップし、声や行動を起こしていくことの大切さを感じます。問題意識を向上させ、多くの声を届いていけば、県や国が対策に乗り出すきっかけをつくることができます。

どのような条例になるのか、今後の動向に注目です！

ユニセフ・スマホサミット 全国6都市で開催

日本ユニセフ協会は、今月から来年2月にかけて、ソーシャルメディア研究会(代表:兵庫県立大学竹内和雄准教授)と協力し、国内各地で、中高生自身がスマホやインターネットの問題と解決策を話し合う「ユニセフ・スマホサミット」を開催します。

かねてより、インターネットが子どもたちにもたらす新たな可能性とリスクの両方に着目してきたユニセフは、2017年12月に発表した『世界子供白書2017』を通じて、様々な国で、次世代を担う子どもや若者自身の参加やエンパワーメントに重点を置いた活動を進めています。

子どもたち自身に「スマホ持ち込み問題」に代表される子どもとインターネットの関係の“あるべき姿”を友人や周囲のおとなと一緒に模索していく機会を提供する取り組みです。

ユニセフ・スマホサミットは10月20日の久留米市を皮切りに地域サミットを全国5都市で開催。来年2月には東京都内で全国サミットを開催し、各地の議論の成果を子どもたちの代表が持ち寄り提言をとりまとめる予定です。この提言は国連子どもの権利委員会等にも日本の子どもたちの意見として提供する予定です。

PRTimes 「ユニセフ・スマホサミット全国6都市で開催」
2019年10月9日(閲覧日2019年10月21日)
<https://prt-times.jp/main/html/rd/p/000001388.000005176.html>

草の根サイバーセキュリティ全国連絡会(私たちの研究会も所属)も「高校生ICTカンファレンス(共催:文科省)」を実施しています。これも内容としては共通していますが、ユニセフが共催している点が画期的です。また、子どもの権利の視点で最後に国連に提出するという行動が“子どもファースト”と思います。これからの時代を生きていく子どもたち自身がインターネットの光と影をきちんと理解しなければなりません。